



高麗中学校だより

# 日和田

令和6年度

3学期始業式号

文責：利根川典正

新しい年を迎え、本日から3学期が開始します。3学期（1月から3月）の期間は『1月に行く、2月は逃げる、3月は去る』といわれるように、あっという間に過ぎてしまいます。3学期も同様、4月当初に生徒一人一人が掲げた目標の達成に向けて着実に前進することを願っています。

能登半島地震から1年が経ちました。新聞やテレビでは現在の復興状況等を伝えていました。そのなかで、強く印象に残ったエピソードを紹介します。ある家族が経営するスーパーマーケットは、「地震発生後も地域の人々が色々な物を必要とするから」と店主自身が被災者にも関わらず営業を再開しました。地域の人々にとって、そのスーパーマーケットは生活に必要な物が手に入るだけでなく、人とのつながりを感じられる大切な場として存在していました。しかし令和6年9月の豪雨災害でそのスーパーマーケットに巨木が激突し、壊滅的な被害を受けました。店主は「もうだめだ・・・」と諦め、スーパーマーケットを閉店しようと心に決めていました。そこにスーパーマーケットの復帰を願い、泥のかき出しに地域の人々も含めボランティアが累計1,000人以上集まりました。その姿に店主は「地域のために必ず復活させる」と強く思い、連日地域の人々が買い物に来てくれるまでに復興を遂げました。スーパーマーケットに来る地域の人々は「ここは私の生きがいの場所なの・・・」「みんなに会える大切な場所だから・・・」と言葉にしていました。大切なことをたくさん学ばせていただいたエピソードでした。

高麗中は3学期も「人とのつながり、人への思いやり」「自分や相手を大切にする」教育活動を進めていきます。本年もよろしくお願いいたします。

## 高麗中日記1～子供たちの様子を伝えていきます。

ある日、校長室に2年生の女子生徒が来てくれました。来室した目的は、私に栞（しおり）をプレゼントするためでした。高麗中図書室を度々利用する私の姿を見て、読書の際使用する栞を作製し、栞をプレゼントしようと思ったとのこと。さらに驚いたのは、「読書する人は、ジャンルのちがう本などを2～3冊同時に読むことが多いから、2枚栞をプレゼントしようと思ってきました。」と・・・、私の読書習慣は彼女の見立て通り。すごい推察力。感激しました。

現在、いただいた栞は定期購読している雑誌と高麗中で借りる図書の2冊で使用しています。度々高麗中生の優しさに触れ、益々高麗中が好きになりました。



## 高麗中日記2～子供たちの様子を伝えていきます。

1月6日、地域の方から電話がありました。感謝を伝えるものでした。

古紙を束ね集積所に運んでいたが、あまりにも重く休憩していたところ、自転車で通りかかった女子生徒が運んでくれたというものでした。とても助かったが、名前を聞けなかったので学校に電話されたとのことでした。

地域の方々にも支えていただいている高麗中生です。良い行いをすれば褒めていただき、悪い行いであれば家族のように叱っていただける高麗地区に感謝しております。